

## イノベーション・コースト構想の検討経緯

- 平成 26 年 1 月、福島県浜通りを中心とする地域の地域経済の復興に向けて、同地域において新技術・新産業を創出し、働く場を創出することを目指し、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会を設置。同年 6 月、同研究会報告書を取りまとめ。

【資料 3 - 2】

- とりまとめ以降、同構想の具体化に向けて、高木原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）を座長とし、内堀福島県知事、各市町村の首長、有識者をメンバーとするイノベーション・コースト構想推進会議等を設置して検討。
- 昨年 6 月の第 5 回イノベーション・コースト構想推進会議において、①各プロジェクトの概要及び 2020 年に向けた目標スケジュール、②構想の実現に向けた考え方を取りまとめ。  
その中で、各プロジェクトについて、1. 既に事業化が進んでいるもの、2. 早期に事業化を目指すもの（平成 28 年度以降事業化）、3. 事業化に向けさらに検討が必要なもの（平成 29 年度以降事業化）、4. 一部事業化に着手済みだが、更に検討が必要なもの、と分類して進捗状況を整理。
- 上記整理に沿って、昨年 8 月、福島浜通りロボット実証区域について第 1 号案件の実施（現在までに 4 件の実証区域を決定）、同 9 月、櫛葉遠隔技術開発センター（モックアップ施設）の研究管理棟の運用開始、また、平成 28 年度政府予算案において、ロボットテストフィールド及び共同研究施設（ロボット技術開発等関連）の整備や地域振興に資する実用化開発等への支援などに関する予算を盛り込むなど、拠点等の具体化を推進。

【資料 3 - 3】【資料 3 - 4】